

町田市議会・志政クラブ報告

吉田つとむ

取材・記事作成・総合編集



携帯QRコード
でブログ閲覧



インターン生を同行

第

市長の施政方針について

今期の第 1 回定例市議会で、市長は今年の「施政方針」を発表しました。この「施政方針」とは、首相の「所信表明演説」に相当するものです。市政の中長期の見通しや基本的な方針、及び今年度の予算案の特徴や主要な施策に関しての説明が盛り込まれています。

その冒頭では、景気の低迷、人口減少社会への移行、地球温暖化の進行をあげています。また、その対応では「市民協働」という概念が繰り返し挙げられています。

私なりのその読み込みにおいて一番注目したことは、交通問題への考えでした。市内交通の向上に関して、バス（連節バスやコミュニティバス）の拡大は提案していますが、鉄道・モノレールの路線延伸には一切触れていないのが特徴でした。「鉄道路線の延伸」に議会や議員の関心は高いので、これから大きな議論になっていくことでしょう。

また、各市民センターなどの公共施設や公民館の利用、あるいは市民病院の諸費用に関しての施策では、利用料金の大幅値上げや有料化が今議会に提出されています。

そうした住民負担の大幅増加を見込む条例案を提出しながら、市長の「施政方針」には料金値上げやそれを設定する施策について一言も触れられていませんでした。

もし、議会が財政の収支上の観点からのみ見て、この条例案を丸呑みして可決すると、「値上げと有料化」は議会が決定した！と市の公報でさかんに PR されるでしょう。まさに、市議会の見識が問われる時なのではなからうかと自分に問うところです。

町田市の人口は増える

さて、この町田市の人口が減少するとした市長の「施政方針」に関する議員の質問に対する行政の答弁は、この先 10 年ほどで人口のピークが来て、43 万人を上限にその後は減少に向かうとするものでした。

私は、少なくとも町田市における、この人口減少説に以前から異論を持ってきました。その理由の一つは、隣の相模原市の発展にあります。境川を隔てた相模原市は、昨年 4 月に政令指定都市となり、神奈川県内では 3 番目の「区政」を敷き、新たな施策を次々と打ち出しています。今後、10 年～20 年は人口を含めて全ての数値が上昇するでしょうし、その影響で、町田市に居住する世帯も少くないでしょう。



最も大きな影響が出るのは、私が絶えず強調してきた、リニア中央新幹線の登場です。JR 横浜線の駅の地下でつながる新路線の駅が 2020 年には新設されます。名古屋～品川間の全面開通に先んじて、山梨との間で先行開通するものです。その駅周辺は、今の新横浜駅以上のビジネス街＝副都心になり、放射状にアーバン地区として再構築されることとなります。この影響は大きく、町田市は少なくとも人口 50 万人ほどに成長すると私は考えています。

★マルチメディア双方向発信 吉田つとむ発見動画チャンネル

URL <http://j-expert.jp/> 発見動画チャンネル <http://jp.youtube.com/yoshidaben>

編集 〒194-0011 町田市成瀬が丘 1-14-12 サンホワイト E103-13 吉田つとむ (市議会議員)

町田市議会・志政クラブ

吉田つとむ

取材・記事作成・総合編集



携帯QRコード
でブログ記事



双方向の情報交流

モノレール延伸予算化の例示

武蔵村山市は、今期の予算案に現在の多摩都市モノレールの延伸を前提にした、1千万円の基金積み立てを盛り込みました。もちろん、現在の段階で東京都がその具体化を決定したわけではなく、モノレール会社はその延伸計画を発表したわけでもありません。要するに、その計画路線化を促進するために先行投資をしたわけです。今後武蔵村山市単独で、10億円の積み立てを行う方針だとのこと。

一方、モノレールの町田延伸に関し、町田市議会は積極的ですが、町田市行政は後ろ向きです。また、都心部の中央区では、銀座から晴海までのLRT（低床式高速路面電車）路線の調査費 1500 万円が始めて予算案に盛り込まれました。

都市交通の増大を、よりエネルギー負荷の少ない鉄道・軌道に切り替える自治体の発想がようやく形に成り出しました。



(研修生 佐藤裕介さんが市議会本会議の一般質問を傍聴：志政クラブの部屋に立ち寄り)

インターン体験記：佐藤裕介

先日、私はインターンシップの一環として町田市スポーツ文化大賞のイベントを見学させて頂きました。当初はそのような賞を取ること自体をただ単純に「すごいな」としか考えていませんでした。しかし今回の体験から物事に対する視野が大きく広がったと思います。

例えば、今回の様なイベントは当然議員さんや各業界の人が参加していてももちろん司会やスタッフもいる。またその資金は誰が出しているのかということなど少し客観的に見ることが出来る様になったと思います。その後は様々な年齢層や業種の方々とお話をする機会を頂き、それぞれの人が一生懸命に会社のことあるいは国のことまでもっとこうすればいいんじゃないか。こうすれば組織として活躍して、いい意味で刺激しあえるのではないかと自分の考えを主張していました。

大人の世界は相手の話をよく聞きつつ、やはりこうあるべきだと自分のオピニオンを持つ事が大切なんだ、ということを実感することが出来、間違いなく将来の糧になったと思う次第です。(記：第 27 期研修生

佐藤裕介 明治学院大学心理学部

教育発達学科 1 年)

研修生の募集について

政治や社会一般の勉強目的で研修を希望する学生を常時募集しています。日程や希望項目の調整をした受けでの受け入れになります。詳細は、下記のメール先にお尋ね下さい。

掲載記事、あるいはご関心事は、下記の FAX かもしくはメールまでご送信先ください。

★吉田つとむの連絡先 TEL 042-795-7361 FAX 042-795-2726